

## 第5回学術・政策勉強会 報告

第5回学術・政策勉強会は、令和4年7月23日（土）に、御茶ノ水ソラシティカンファレンスセンターで、「2024年の医師の働き方改革に麻酔科医はどう対応すべきか」のテーマで開催しました。前回と同様のハイブリッド開催として、現地35名、WEB35名の参加者がありました。

武田純三代表理事の第5回学術・政策勉強会の主旨の説明を交えた挨拶の後、今回お忙しい中会場までお越し頂きました新谷正義衆議院議員にご挨拶を頂きました。新谷議員は、自民党議員連盟「日本の安全な麻酔・周術期医療を考える会」の幹事長を務めていただいております。第4次安倍内閣では厚生労働政務官として「2040年を展望した社会保障・働き方改革本部」に参加しておられます。



武田純三代表理事



新谷正義衆議院議員

今回は、2024年4月から実施される「医師の働き方改革」に臨んで、麻酔科医の働き方改革の問題点を管理者の視点で、4名の先生にお話を頂いた。

司会：内野博之（東京医科大学 日本麻酔科学会常務理事）



## 1. 今村 聡（医師の働き方改革の推進に関する検討会 構成員・日本医師会前副会長）

医師労働時間短縮計画作成ガイドライン及び医療機関の医師の労働時間短縮の取組の評価に関するガイドライン

2024年の開始に向けて、準備しておくべき項目とタイムスケジュール、注意点などを説明頂いた。特に、医師労働時間短縮計画の作成、「医療機関勤務環境評価センター」や模擬審査内容について説明頂いた。



## 2. 病院長としての取組

### 1) 川真田 樹人（信州大学医学部附属病院院長）

医師の働き方改革—信州大学病院の取り組み

信州大学病院での時短の取組みが紹介された。次いで医師の働き方改革の課題が紹介された。労基署の勤改センター（医療勤務環境改善支援センター）がまだ対応できない状況にあることや、地域医療構想、医師の偏在の解消と働き方改革は三位一体であるべきであるが、他が未解決の状況で働き方改革だけが行われようとしており、大学病院の研究力・教育力低下を招き、医療崩壊のリスクが高まっている。



## 2) 南 敏明 (大阪医科薬科大学病院長)

### 医師の働き方改革

大阪医科薬科大学病院での積極的な取り組みの紹介と、麻酔科内での実情の紹介と具体的な麻酔科医労働時間短縮計画が説明された。また、タスクシフトとして看護師の特定行為研修修了者や、医師事務作業補助者の増員計画、労働時間と自己研鑽について、また、B水準で申請するか、C-2水準で申請するかの検討も必要である。



## 3) 鈴木 宏昌 (国立病院機構横浜医療センター院長)

### 働き方改革と麻酔科医「病院長としての取り組み」

勤務時間管理システムを全職員を対象に導入した経緯を紹介頂いた。「働き方改革」やなぜ「働き方改革」が必要なのかを、管理者より説明することで、医師の協力を得ることができた。円滑に運用されていることから、国立病院機構として取り入れられることになった。麻酔科医については国の考えと現場の状況の乖離が存在していることが指摘された。



コメンテーター

稲田 英一（東京都保健医療公社 東部地域病院長）

藤野 裕士（日本麻酔科学会 総務委員会副委員長）

企業共催セミナー

現代の麻酔器を考える

司会：山蔭 道明（日本麻酔科学会 理事長）



1.麻酔器に関する科学的考察と現代の麻酔器に望まれるもの

森松 博史（岡山大学病院医歯薬学総合研究科 麻酔・蘇生学講座教授）



2.MINDRAY A7 を使用して

牧野 洋（浜松医科大学医学部附属病院 麻酔科蘇生科講師）



MINDRAY の紹介（泉工医科工業株式会社）



A7 麻酔ワークステーション

最後に森田潔事務局長より閉会の挨拶を頂いた。

